

發行兼編輯人 川崎文治



刊夕日五十月四

第一號 五厘 郵税 五厘 印刷 五厘 電話 四七五番

常警論壇
 何う纏まるか
 政界通人
 政局は實に危機一髪と云ふ處まで發展して來た憲政會としては田中男が政友會總裁たる以上三派協調の意味合上其入閣を切望し實現しこれによりて協調を保たんとするは固より道理あることである、併し政友會から見ると田中男を總裁に頂く趣旨から云つて入閣を好まぬと云ふことになる譯で此は兩者に取りて極めて大事なる處である結局田中男は入閣せまじく入閣せぬと云ふても憲政會は直に單

獨内閣を組織すると云ふことは容易に出來得るものではない、従つて何等か適當な妥協點を見出して協調を保つて行くことになるがこゝうなれば今後の三派協調は最早長き間繼續するものと見ることが能はず憲政友友兩派は夫れ／＼後段の始末をすることに取らねばならぬ而し閣外にありて政友會が内閣を倒して次の政權を横奪せんことに腐心するならば憲政會としては本黨と手を結ぶことが緊喫な問題となつて來る即ち次の政權は本黨に與へて次で來るべき政權を自黨の手に收むると云ふことを計畫す

るのが何より大切である併しその以前に於て政友會は必ずや將來の準備として本黨と手を結ぶに相違ない此兩黨の中に於て何れが早く本黨と手を握るかは今後の成行に就いて見て政局に重大なる影響を與へるものであるが若し假りに政友會が本黨と手を握ることに一歩早く成功するならば憲政會としては後藤と結ぶも一策である今後政權を握り得る中心人物は加藤、田中、床次及後藤の四勢力より外ないものであるから政友本黨の提携は次の政權を後藤に渡して而して憲政會は之れを輔け同時に次の政權を自派の手に收むるより外にない

小兒科 內科 淋病科 梅毒科 (需應院入)
 平町紺屋町
藤沼醫院
 電話 五〇七番

平町四丁目
関内薬局
 電話 四拾番

花見のお歸りには
 長橋町の
 まつやへ

齒科平町森合齒科医院

小僧さん入用
 喰べてほしい
遠藤パン
 (有聲座隣)

内科・外科・花柳病科
 耳鼻咽喉科・婦人科
赤心堂病院
 平町町電話四七五番

内科・外科・耳鼻咽喉科・花柳病科
高久病院
 平町町電話五二三番

内科・胃腸科・婦人科
 十二指腸虫病科
 花柳病科・X光線科
松村病院
 平町町電話一〇七番

▲文明人の子供は最も文明の玩具を喜ぶ
 小供用十五錢 教授用一圓

家庭教育玩具
 新案特許出願
 第一七七八番

各學校幼稚園實地應用の結果賞賛を博し感謝狀を賜はる

水戸市西條作樂館(販賣所) 水戸市西條作樂館(販賣所) 水戸市西條作樂館(販賣所)

モリスン
 今春流行珍柄
 豊富ニ取揃
 御用意ナシ

大原
 リンス店
 平町三丁目

看護婦派出
 の求めに應ず
 平町南町
平看護婦會
 電話三〇七番

素敵! 景品付大賣出し
 五十錢の品も二十錢で

新製菓(櫻あられ)發賣と博覽會を記念する爲め利益の度外視決行

平 龍燈 あられ 五十錢
 み 櫻 あられ 五十錢
 や 龍燈 ミルクゴア 五十錢

石川亭
 夕食は鳥
 書食は牛

磐城製菓株式會社
 電話 三〇六番

柏傳の
全染物ト刺子
柏屋染物店

毎日午前十時一
卅分間
 友仙モス一尺
 十二錢で廉賣
春衣の
 大賣出し

平・土橋
 鹽屋吳服店
 電話二一七番

職權乱用の貞操蹂躪問題 六

女から最初 切り出したのだと

空うそぶいて平然……

最後の断案は下る

筆者は彼女が所謂如何なる種類の女であるかを突き止めて置かねばならなかつた、ソコで去る卅一日の夕方大和家に彼女を訪ねたのであるが其の時は既に女が

郷里に 立つの一言を

言を殘し其日の午後三時の下り列車で平町を立つた後であつた、然も其の前夜職業紹介所の松田(假名)が忍かに大和家の裏口に彼女をさそひ出し密談數刻に及んだと傳へられて居る、是れに依ると松田は已が身にふりかゝる

問題が 益々重みを加へつゝある事に

加へつゝある事に惶れを抱き彼女に旅立ちを懇願したのであらう事を肯く事が出来る、然らば松田は夫れ程の狼狽を感じたに拘らず其傍ら省じた模様は更らになつた、何故なれば伏見町長から事實の真相を取調べらるゝに當り「最初女が妙な事を私に云ひ寄つたので私が断然

公園の櫻 人出で賑ふ

花見の時を狙つて一景氣盛なり起そうと待ち兼ねて居たり松ヶ岡公園の櫻は昨日邊りから笑ひ初め今日の晴れ間を幸ひに「公園へ……公園へ……」と繰り込む人が多く殊に茨城縣松原町から迄も消防組員の團が花見気分を濃やかならしめ頗る賑ひを呈した

ヒチ鐵 を食はした

爲の夫れを遺恨に思つてアソナ投書をしたのでせう」と平然と云ひ放つたさうである、彼れは、斯かる信じ得べからざる言を以つて一



家庭欄

訪問と應接の心得(九)

相手の坐るのを待つてゐると、また後から〜矢繼早に御馳走を並べられ立つ譯にも行かす困るものであり

夏井村の水争ひ陳情

本口郡長へ 石城郡夏井村大字赤沼、六

町政刷新の上 新人物囑望さる

利権派を屠れ

選挙権が擴張された上に級別撤廢に依りて行はるゝ今回の町議戦は必らずや目覚ましいものであらう事な期待されて居る然も都市計劃に向つて着々

其歩を 進めねばならぬ

らぬ町政としては此際町政の上に一脈清新の氣を吹き込むべく新人の躍起を囑望する氣運が濃厚である事は當然の歸結と考へられる、殊に町政治上に於ける癌種とも目されるべき大瀧發電所問題はいまだ

解決を 告ぐるに至

ます、すべて程よくしてこそ御馳走もおおいしく頂かれます。それに時間と云ふものが有つて何も御馳走の多いのが自慢にもならなければ其品數で親切の標準がきまるものでもありません。珍客なればなほ落着いてゆつくり話をする。話のうち心づくしの御馳走をおい

統計事務の刷新を圖る

研究会を組織

石城郡統計課員並に町村統計調査員は此程打つて一丸となし石城郡統計研究会を設置したるが事務所を郡衙に置き統計事務の改善統計思想の普及を圖り

不平受付

破れた警鐘 先日消防検閲の際鳴らした平署前の警鐘は音が悪い、破れて居るらしいから早速改鑄して貰ひ度いな、さうでないといふ萬一の際に困る (不平生)

櫻村平署長の答 實際破れて居るらしく私も氣付いて居ましたから消防組に注意して置かませう

粹な花見の取締り

櫻村署長方針を語る

春が来た花も濃艶を孕ませ道行く人の兩頬に清い香りを投げる花見の日も最早この數日に迫つて来たこの期間には何時もながら風紀問題とか

風俗問題

とかが必ず起つて来る平町地方の花見時に初めてある櫻村平署長の花見に對する取締方針を聞くに次ぎの如く語つてゐた「花に恵まれ酒の香に酔ふ事の出来る花時は

年一回で あるから

取締りといふ方面も積極的な取締をしないで消極的に

愛谷江の水を利用し

火力發電増設

平町警署炭礦發電所では坑内作業其他益々電化せしむるため今回三千キロ發電機一臺を増設し九千キロを發電し得ることとなつたが従來汽罐用水としてゐた夏井川水が愛谷江筋に廻流され

男女關係

であつて公然に風紀を紊亂してゐると見たものは取締らぬ譯に

二萬五千通

平町の電話

平郵便局の昨年度に於ける市内通話數は千八百一十六通(平驛前自動電話公衆電話をふくむ)で市外通話數は廿一萬八千通話では是等を合し一日平均の通話數は二萬五千通話一時間でも一千二百餘通話となる由

平町人事

婚姻

△白銀町九 大工職山本徳次郎氏 (二八) 宮城縣伊具郡丸森町齋藤 カネ(二五)

△死亡 △堂の前二〇 門林ヨネ(五三)